令和２年度「学校評価」結果（概況報告）

盛岡第二高等学校

【調査結果】

昨年度との比較
「肯定的な評価」（注1）の比率の過年度比較

三者の比較
Ｒ２ 生徒・保護者・職員間の比較

質　問　項　目	2年度調査 生徒 %	2年度調査 保護者 %	2年度調査 職員 %	元年度調査 生徒 %	元年度調査 保護者 %	元年度調査 職員 %	生徒－保護者	生徒－職員	保護者－職員
	斜体・ゴシック体＝65%未満 *斜体＝75%未満* 下線部＝90%以上						***斜体・ゴシック体＝±20以上の差*** *斜体＝±15以上の差*		
1 教育目標の周知	78	82	96	90	88	98	−4	*−18*	−14
2 わかりやすい授業の実施	*70*	75	100	76	76	93	−5	***−30***	***−25***
3 学習指導の徹底	*66*		87	*74*		83		***−21***	
4 家庭学習・課題の点検	*71*	*67*	85	79	*69*	83	4	−14	−18
5 応用力のつく授業の実践	***56***		*81*	*68*		*65*		***−25***	
6 生活のきまりやマナーの遵守	*73*	88	89	81	88	90	*−15*	*−16*	−1
7 生徒会活動や部活動の活発さ	94	94	94	92	92	88	0	0	0
8 勉強と部活動の両立	75	77	94	78	75	90	−2	*−19*	*−17*
9 生徒への安心安全の支援	82	79	96	84	80	98	3	−14	*−17*
10 登下校時等の安全指導	80	77	96	89	81	90	3	*−16*	*−19*
11 希望進路の実現	80	79	98	86	81	93	1	*−18*	*−19*
12 適性を考慮した進路指導	81	77	96	86	77	90	4	*−15*	*−19*
13 保護者と連携した進路指導	*71*	*69*	98	78	*70*	90	2	***−27***	***−29***
14 二高に入学「良かった」	80	89	(注2)95	81	89	(注2)98	−9		
15 安全・清潔な学習環境の保持	88	93	96	91	93	98	−5	−8	−3
16 生徒の相談への丁寧な対応	77	80	94	79	79	95	−3	*−17*	−14
17 生徒の居場所づくり	76	87	96	79	83	90	−11	***−20***	−9
18 保護者と連携したPTA活動		*70*	94		76	90			*−24*
19 地域への貢献	85	85	100	85	84	98	0	*−15*	*−15*
20 学校徴収金の額	(注3)84	93	98	(注3) 86	93	95			−5

【分析１】　全体的な傾向について

今年度も昨年度とほぼ同じような傾向を示した。肯定的な評価が70%以上の項目が多い(生徒17/19　保護者16/18　職員19/20)が、学習に関わる項目で低めの評価が目立つ(5･4･3･2･8)。生徒の評価において、肯定的な評価が低い項目は昨年度に引き続き項目5の「応用力のつく授業の実践」生徒56%、職員81%であった。また、項目4「家庭学習・課題の点検」が昨年に続き保護者の肯定的評価が最低の67%であった。

【分析２】　評価が高かった項目、評価が改善した項目について

「7 生徒会活動や部活動の活発さ」 今年度も生徒と保護者から高い評価を得る(三者とも94%)とともに、昨年度より評価が向上した。コロナ禍中であるが、様々な工夫・対策を施して活発な活動の維持を期待したい。

「15 安全・清潔な学習環境の保持」 今年度も生徒と保護者からの高い評価(生徒88% 保護者93% 職員96%)を得た。普段の掃除をはじめ、修繕箇所への速やかな対応のためと考えられる。

「20　学校徴収金の額」 (保護者93% 職員98%)適正な金額ととらえていただいたと考えられる。

【分析３】　評価が低かった項目、評価が分かれた項目について　　【改善策等】

【分析３】	【改善策等】
「5　応用力のつく授業の実践」 昨年に引き続き生徒・職員で最も評価が低かった。(生徒56% 職員81%)　学年の進行につれて高度化する学習内容に対応するため、基礎基本の充実に時間がかかり、結果として応用分野への取組が少なくなったこと。普段の学習が客観的な学力の指標となる校外模試の結果に結びつかない不満が低評価につながったと考えられる。	授業の工夫はもちろん、生徒の応用力向上のために、家庭学習習慣の確立と基礎基本の定着を図り、応用分野への取組を促進する。
「4　家庭学習・課題の点検」 昨年度に引き続き保護者からの評価が低かった。 生徒71% 保護者67% 職員85%　保護者内訳(1学年65%、2学年62%、3学年75%)1・2学年の保護者の5人のうち約2人が、生徒の家庭学習と課題の点検に満足していないと考えられる。	良質な課題の他に進路目標達成のための家庭学習の必要性を自覚させ、生徒のモチベーションを高める。また、保護者との連携を深め、協力を得ることにより改善を図る。
「3　学習指導の徹底」 生徒がワースト2(66%)・職員がワースト3(87%)である。生徒の約5人に2人が学習指導に何らかの不満をもっていると考えられる。学習の進度や説明方法等を再確認し、生徒の定着度合等を確かめながら、指導する必要がある。	授業と家庭学習を両輪に基礎基本の定着と、良質な問題演習で応用力を強化する。生徒の進路目標達成のために日々の努力が必須であることを理解させ学習に取り組ま
「13　保護者と連携した進路指導」 生徒・保護者では差がない(生徒71% 保護者69%)が職員は98%である。生徒・保護者の評価が低いのは、生徒・保護者が学校からの進学情報提供や職員との連携強化や指導法等についての希望が満たされていないことが一因であると考えられる。職員が思うほど生徒・保護者は満足していないことを認識し、さらに丁寧な進路指導が望まれる。	進路学習会への保護者の参加率向上、時宜に応じた進路情報提供について、更に工夫を検討する。進路通信等が確実に保護者まで届くような工夫をする。保護者との連絡を密にして意思疎通を促進する。
「2　わかりやすい授業の実施」 生徒76%→70%、保護者76%→75%、職員93%→100%となっている。生徒保護者がそれぞれワースト3，4に対して職員はベスト1(100%)、生徒・保護者と職員の評価が分かれている。生徒は10人中3人、保護者では4人に1人が何らかの不満があると考えられる。	職員は、生徒の実態掌握、各教科での指導の再確認や検討、効果の検証を行い、生徒の実態に即し、かつ効果的な指導を施す